

ディスコグラフィー収載

ディスコグラフィー【2019No.149】(HP 収載)

分類：MQA-CD

作曲家：ブラームス

曲：交響曲第1番

演奏：シャルル・ミュンシュ指揮パリ管弦楽団

発売：ワーナーミュージック

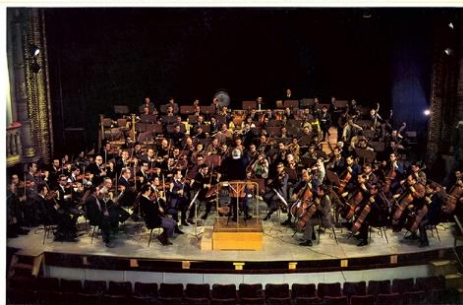
No. : WPCR-28422

概要：

ORCHESTRE DE PARIS  
SOCIÉTÉ DES CONCERTS DU CONSERVATOIRE  
CHARLES MUNCH



BRAHMS: SYMPHONIE N°1



サイト上の解説を引用して下記に転載します。

「1968年作品、アナログ・テープを基にした2018年96kHz/24bitマスターを  
176.4kHz/24bitに変換して収録

Recorded: 8 & 12 January 1968, Salle Wagram, Paris

Producer: Rene Challan

Balance engineer: Paul Vavasseur」

【収録曲】

- M-1 Symphony No. 1 in C Minor, Op. 68 I. Un poco sostenuto - Allegro / 交響曲第1番ハ短調作品68 第1楽章：ウン・ポコ・ソステヌート～アレグロ
- M-2 Symphony No. 1 in C Minor, Op. 68 II. Andante sostenuto / 交響曲第1番ハ短調作品68 第2楽章：アンダンテ・ソステヌート
- M-3 Symphony No. 1 in C Minor, Op. 68 III. Un poco allegretto e grazioso / 交響曲第1番ハ短調作品68 第3楽章：ウン・ポコ・アレグレット・エ・グラツィオーソ

Symphony No. 1 in C Minor, Op. 68 IV. Adagio - Piu andante - Allegro  
M-4 non troppo / 交響曲第1番ハ短調作品68 第4楽章：アダージョ～ピウ・  
アンダンテ～アレグロ・ノン・トロツポ

ブラームスの交響曲第1番と言えば、ベートーベンの第9を意識した、壮大で重厚な印象がありますし、最近も[ネルソンス指揮のライプツィヒゲヴァントハウス管弦楽団の演奏](#)を聴いて、その感を強くしています。しかし、ミュンシュ指揮パリ管弦楽団の演奏は、ブラームスのメランコリックロマンチズムをやや明るめにして華やかな印象さえ持たせてくれます。音質的には、MQAのエンコードの前段階で96KHzPCMのリマスターを経由しているせいか、ハイレゾ感は若干希薄です。

以上